山川橋（やまかわばし）

中部地方の
選奨土木遺産

令和３年度登録

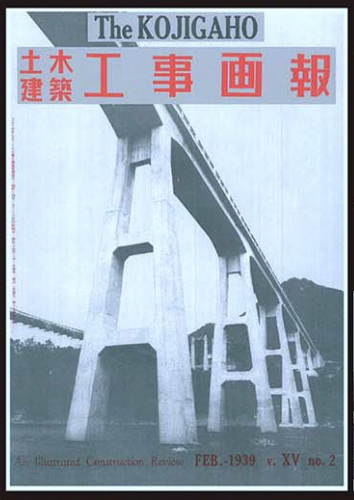
所在地：岐阜県加茂郡川辺町　　竣工年：１９３７（昭和１２）年
管理者：川辺町
認定理由：川辺ダム建設に際して昭和12年にダム湖に架けられたゲルバー式RCラーメン橋で、ながく地域で愛されてきた土木遺産である。

上流右岸側からみる山川橋の風景。傍らに米田富士と呼ばれる愛宕山が聳える。湖面はボートの練習場として盛んに利用されている。

1938（昭和 13）年に完成した川辺ダムは、満州事変以降の電力需要の高まりに応じて東邦電力によって開発された発電用の施設である。このダム上流 1km の地点で県道川辺八百津線が吊橋（旧山川橋）で渡っていたが、路面がダム湖へ没する計画だったため、岐阜県土木課が東邦電力の寄附（11 万円）を用いて架け替えた。これが現存する山川橋である。ゲルバー式 RC 造で、竣工当時から「白帯を渡せるが如き其の白一線は東岸に聳ゆる米田富士の秀峰と相俟つて、鏡の如き湖面に相映じて風光一段の美を加ふ」とその風景美を愛でられている。

現在の風景にもこの橋の控えめなスレンダーなシルエットが心地よい印象を与えているが、実はダム湖の水面下に大きな橋脚を持たないとこのささやかな架橋が実現できない。その全容は日常では見ることができないが、湛水する前の竣工写真にはその威容を確認することができる。

現在は川辺町が管理しているが、2009（平成 22）年度に長寿命化修繕工事として、損傷の補修、落橋防止対策、高欄が付け替え、照明灯の設置などが実施された。現在の安全基準を満たさなかったことから取り外されてしまった瀟洒な高欄は、橋詰の公園に飾られており、地元の愛着を感じることができる。



◀ 水面に見える姿だけからは想像が難しいが、山川橋の全容が分かるダム湛水前の貴重な写真。『土木建築工事画報』1939 年 2 月号の表紙を飾った。現在は遺る主塔上部のみが見える吊橋が右手奥に見える。

▼「湛水により旧橋水没せるため架換へたるものなり」という説明付で『飛騨川水力開発史』（1939）に紹介される川辺ダム湛水直後の山川橋。

▲『飛騨川水力開発史』（東邦電力株式会社 1939）に掲載されている川辺発電所位置図。「中川辺」の集落東の渡河地点が山川橋。その東には「愛宕山」の文字。

▲ 大正期に近代吊橋として建設された旧山川橋の主塔が遺されており、その上部を左岸側にみることができる。

▲ 下流の川辺ダムと川辺発電所。背景にみえる際立つ峰は、山川橋に近接する「米田富士」と愛でられている愛宕山。